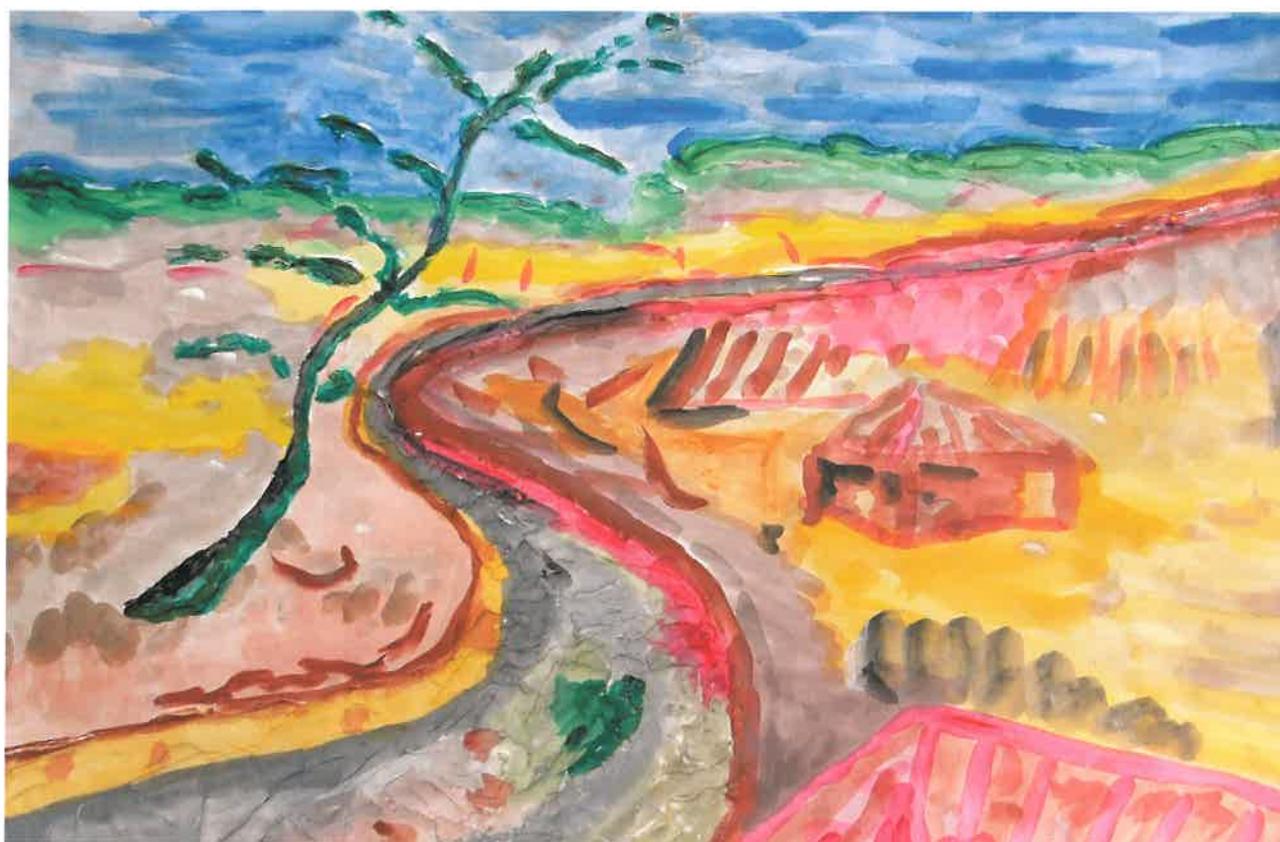


精神保健福祉

みやまき



宮崎県精神保健福祉連絡協議会

51

2011

巻 頭 言

絆

宮崎県精神保健福祉連絡協議会 会長

三山 吉夫

宮崎県は鳥インフルエンザに続いて平成 22 年には、口蹄疫の発生、新燃岳の爆発などの災害にあいました。宮崎県民がお互いに協力しあって難局をのりこえましたが、全国からも温かい支援をもらい、日本人の心に感動したことを忘れることはできないでしょう。平成 23 年 3 月 11 日、東日本に想定外の震災が起こりました。東日本大震災は、宮崎県の災害をはるかに超えるものでした。まるで映画を観ているようで、本当に起こっているのかと自分の目を疑いながらテレビの画面にクギ付けになった人も多かったと思います。その後、震災の場面を何度見ても身ぶるいします。500 年～1000 年に 1 度の震災だと聞き改めて震災の大きさを知り、被災者の方々の大変さを感じています。被災者の方には心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りします。この大震災は、わたしたちにいろいろなことを教えてくれました。宮崎県に手を差しのべていただいた場合と同じように、何か応援したい、役に立ちたいと言う気持ちで、全国各地から温かい手がさしのべられています。日本人の一人一人が、自分にできることを申し出て全国から毎日のようにボランティアによる救援活動が報じられています。宮崎県からも多くの方が応援に行っています。応援に行かれたみなさんの「行ってよかった」と言う声、応援を受けた人と一緒に笑顔になっている姿に、私たちは感動しています。外国の人からは、日本人の心の優しさ、美しさを改めて感じたという報道があり、世界中の人々も応援してくれています。ここに、日本人の“心の絆”を見ることができたように思います。私たちは自分のことで精いっぱいの日々ですが、周りに困っている人、弱い人がいると「誰か」ではなく「自分が」と自然に手を差しのべてあげたいという心を誰でも持っていることをこの震災は教えてくれました。

さて、わが国の精神保健福祉の分野では、数多くの問題点をかかえています。子育ての問題、子供への虐待が増えている問題、精神障害者が社会に戻ることがなかなか進まない問題、自殺者が減らない問題、高齢者の福祉問題など取り組む問題が沢山あります。これらの問題は、日ごろ私たちの身近に存在するだけに、見なれているようで見過ごしたり、考えようとしないうちに思われることがあります。私たち一人ひとりがもっている“心の絆”を少し意識するだけで、多くの方が救われ、幸せな社会になることを私たちは知らなければなりません。社会的に弱い立場にある人が、社会の中でその人らしく、みんなと一緒に生活できるようにすることは、そんなに難しいことでしょうか。今回の大震災と、人の行動で私たちが感じた“心の絆”が可能にするのです。自分の周りの人を少し思いあって行動することで多くの方が救われ、幸せな社会になることにつながるのです。今日本は世界に先駆けて本格的な高齢社会を迎えています。認知症をはじめ、高齢者に特有な病気の増加は避けられないでしょう。少子高齢と世界一超高齢社会となった日本が福祉でも世界の手本になれるような国にならなければいけません。活力のある社会を持続することは可能です。日本の取り組みに、世界が注目していると言っても過言ではないでしょう。宮崎県の災難や東日本の大震災が教えてくれた、日本人の“心の絆”を今一度一人一人が考え、宮崎県を日本で一番幸福感が味わえる県にしようではありませんか。

目 次

巻 頭 言 辭

宮崎県精神保健福祉連絡協議会 会 長 三 山 吉 夫	1
----------------------------------	---

第50回宮崎県精神保健福祉大会（平成22年度開催）

大会テーマ 『笑顔でひろげよう 人の和ときずな』	4
大会宣言 スローガン	6
特別講演「笑顔でいきんしゃい！」 講師 島田 洋七 氏	7
オープニングアトラクション・体験発表	8

精神保健福祉事業功労者（平成22年度）

宮崎県精神保健福祉連絡協議会会長表彰（4名、1団体）	9
----------------------------------	---

表彰受賞者の声（平成22年度）

株式会社 虎屋 工場長 甲 斐 哲 見（延岡市）	11
宮崎県断酒友の会 えびの支部長 川 野 信 広（えびの市）	11
宮崎県断酒友の会 都城支部長 森 山 健 一（都城市）	12
串間市「話し相手ボランティア」連絡会代表 古 川 啓 之（串間市）	12
社会福祉法人敬和会養護老人ホーム和幸園園長 上 原 健 二（日南市）	13

第10回宮崎県障がい者スポーツ大会の結果について

14

宮崎県障がい者スポーツ大会に参加して（平成22年度）

江南よしみフェニックス	15
若草クリニックデイケア	16
医療法人清芳会井上病院デイケア	16
谷口病院 ゴーレム	17
西都病院デイケア「つきどん」メンバー一同	18

各地域精神保健福祉協議会の動き

宮崎地域精神保健福祉協議会	19
日南串間地域精神保健福祉協議会	20
都城北諸地域精神保健福祉協議会	21
西諸地域精神保健福祉協議会	22
西都児湯地域精神保健福祉協議会	23
日向入郷地域精神保健福祉協議会	24
延岡地域精神保健福祉協議会	25
西臼杵地域精神保健福祉協議会	26

精神障がい者支援組織・グループの動き

NPO 法人宮崎県精神福祉連合会	27
社団法人宮崎県断酒友の会	28
ルピナス倶楽部	29

障がい者の就労促進等に取り組む事業所

社会福祉法人清樹会 地域生活支援センターすみよし 障害者ピア活動実践促進事業について	30
NPO 法人ほとくり会 変わりゆく「ほとくり作業所」	31
NPO 法人西諸地域活動支援センター 菜の花（障害者地域支援センターⅢ型）	33
NPO 法人ハッピーデイズ こころの駅 ハッピーパーク	34

宮崎県精神保健福祉連絡協議会だより

平成22年度事業実績	35
平成23年度事業計画	37
宮崎県精神保健福祉連絡協議会 役員名簿	38
宮崎県精神保健福祉連絡協議会 会員名簿	39

第50回 宮崎県精神保健福祉大会

テーマ：笑顔でひろげよう 人の和ときずな

1 開催日時：平成22年10月26日（火）
12時30分から15時30分

2 場 所：都城市総合文化ホール

3 参加人数：1,400名

4 大会内容

(1) オープニングアトラクション
「みやこんじょ娘太鼓」
力強い迫力の演奏！！

(2) 体験発表

- | | |
|----------------|-------|
| ・社会福祉法人キャンパスの会 | 篠原 明子 |
| ・有限会社宮一建設 | 太田 武光 |
| ・宮崎県断酒友の会 | 永田 真志 |

(3) 式典（表彰）

- | | |
|------------------|-------|
| 宮崎県知事表彰 | 5名1団体 |
| 宮崎県精神保健福祉連絡協議会会長 | 4名1団体 |
| 宮崎県精神科病院協会会長表彰 | 15名 |

(4) 特別講演

- 演 題：「笑顔でいきんしゃい」
講 師：島田洋七



オープニングアトラクション



みやこんじょ娘太鼓の迫力の和太鼓演奏に会場が盛り上がりました。

大会宣言



当事者、支援者、家族の代表が開会宣言しました。

体験発表



これまで経験したことや疾患への思い、今後の目標をいきいきと発表しました。

展示コーナー



精神科病院デイケアや障がい者就労支援事業所の作品に多くの方が見入っていました。作品に関する質問もあり、交流の場となっていました。

多くの方に来場していただきありがとうございました。

大会宣言

地域社会のつながりが薄れてきている今、ひとりで悩み、生きることへの不安を抱える人たちが増えている中、みんなが支え合い、ひとり一人が安心して暮らせる社会をどのように築いていくかが課題となっています。

本日、ここ都城市で開催した第50回宮崎県精神保健福祉大会において、「笑顔でひろげよう 人の和ときずな」をテーマに、こころの健康の輪を一人ひとりが広げていくことを確認しました。

私たちは、次の3つのスローガンを掲げ、「笑顔あふれる」地域の中で、だれもが生きがいを持って、自分らしく生活していける社会の実現に向けて活動していくことをここに宣言します。

《 スローガン 》

- 1 笑顔あふれる「こころの健康づくり」をめざします。
- 2 みんなで支え合える「地域づくり」をめざします。
- 3 だれもが明るく楽しめる「社会づくり」をめざします。

平成22年10月26日
第50回宮崎県精神保健福祉大会

特別講演

「笑顔でいきんしゃい！」

講 師

島 田 洋 七 氏

【プロフィール】

生年月日／昭和25年2月10日 出身地／広島県広島市&佐賀

【紹 介】

漫才コンビB&Bとして1980年代の漫才ブームの先駆者となる。NHK漫才コンテスト、上方漫才大賞、読売テレビ・上方お笑い大賞など数々の賞を受賞し、「もみじまんじゅう」のギャグは一世を風靡。

現在は、タレント活動の傍ら、講演、執筆活動にも精力的に取り組む。

自分の人生論や経験、おばあちゃんとの生活などを元に語る講演会は開催4000箇所を超える。

著書「佐賀のがばいばあちゃん」はシリーズ670万部を超え、国内のみならず、韓国版、台湾版など世界各国に広がりを見せている。

2009年には「島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん」で、映画監督デビューも果たしている。

【著 書】

がばいばあちゃんシリーズ（徳間書店）

老いてますます、おもしろい人生（日本文芸社）ほか

オープニングアトラクション・体験発表

「みやこんじょ娘太鼓」

私共みやこんじょ娘太鼓は、1986年夏、都城「盆地まつり」をきっかけに発足した女性和太鼓集団です。

和太鼓の魅力に心動かされた女性7名で構成され、自分たちも楽しく、観客の皆様方にも目と耳とで楽しんで頂けるような舞台を目指し、県内外の祭り・イベント・結婚式等で演奏活動を行いながら日々練習に励んでいます。本日は精魂込めて演奏させていただきます。

「体験発表」

社会福祉法人 キャンパスの会 篠原 氏

私は社会からはみ出るのは怖かった。今までの自分の人生を見つめ直し、傲慢と偏見だけが見えました。このまま生きていて、何の存在理由があるのか…。私が精神疾患を患った時の記憶です。今でも当時の記憶は鮮明に覚えています。現在は自分の病気と向き合いながら生活しています。

私たち精神障がい者は「キャンパスの会」のように私たちを取り巻く環境をサポートしてくれる福祉サービスを受ける権利があります。守ってくれるサポーターや仲間たちがいますから、私は一人ぼっちではありません。人々がお互いに尊敬し、喜び合う社会を目指して、今日の一步を進めたいと思います。

有限会社 宮一建設 太田 氏

現在は建設会社に勤務し、土木工事で様々な現場で働いています。難しい機械の扱いにも慣れ、たくさんの現場をこなしています。他にも上下水道の工事にも携わり、水道水に含まれる塩素濃度の車内検査や、外部散水栓の設置工事もしています。

講習の一ヶ月前から毎日勉強し、玉掛技能講習を受けて資格を取得しました。

今年の5月、ブライトハウス住吉の職場体験実習を通して、就労を目指して就労したことが表彰され、社員一同で喜びました。

宮崎県断酒友の会 永田 氏

仕事が忙しくなった事で徐々にアルコールを飲む量が増え、次第にアルコールを飲む事が中心に生活をする事になりました。病院でアルコール依存症と診断された時は、不安で信じられない気持ちでしたが、入院して断酒を続けることでアルコール依存症から回復することを学びました。入院中に断酒会と出会い、断酒会が自分を救ってくれたと言っても過言ではありません。

一人で断酒はできません。自分も体験談を話し、先輩たちの体験談を聞くことがよい薬となっています。アルコール問題で悩んでいる方やその家族の方は、ぜひ断酒会へ！仲間が待っています。

宮崎県精神保健福祉連絡協議会会長表彰

氏 名	住 所	所 属 職 種	功 績 概 要
かい てつみ 甲斐 哲見	延 岡 市	株式会社 「虎屋」 工場長	<p>社会適応訓練事業所「虎屋」の工場長として、周囲から絶大な信頼を寄せられている人間性で、精神障がい者の社会復帰を図るための訓練を行っている。</p> <p>仕事内容が菓子製造業であるため、特に「衛生管理」については、根気よく、徹底的に指導している。</p> <p>また、社会性を身につけてもらうため、「あいさつ」と「10分前行動」の必要性を繰り返し指導しており、その結果、訓練生自ら、あいさつができるようになり、規則的な生活習慣に馴染みにくかった訓練生も、時間を守れるようになっていく。</p> <p>主は、常に一人ひとりの状態を把握し、声かけを行い、働く意欲、喜びを引き出しながら訓練を支えている。さらに、家族とも面接等を行うことで、訓練生の環境までも考慮しながら指導に当たっている。</p> <p>他の社員との人間関係にも気を配り、障がい者の働きやすい職場づくりを心がけ、訓練終了後も継続して働けるよう配慮するなど、精神障がい者の自立と社会参加の促進に尽力している。</p>
かわの のぶひろ 川野 信広	えびの市	宮崎県断酒友の会 えびの支部	<p>平成8年から断酒会えびの支部に入会。平成12年1月からえびの支部の会長として活動。</p> <p>他の断酒会支部に数多く参加し、自らの断酒継続と共に、えびの支部依存症者や家族への支援を行ってきた。</p> <p>平成18年4月からは、支部の活動拠点をえびの市文化センターに移し活動。県内に限らず県外からの参加者も増えており、21年度は年間287名が参加した。</p> <p>例会では、依存症の酒害体験の掘り起こしを行うことで、参加した他の依存症者のモデリングとなり、参加者それぞれが自分の断酒継続の力にしている。また、酒害に巻き込まれた家族の回復にも力を入れており、夫婦同伴での参加者も多い。</p> <p>例会以外でも専門病院と連携をとり、退院者訪問や電話連絡を行うなど支援を行っている。</p>
もりやま けんいち 森山 健一	都 城 市	宮崎県断酒友の会 都城支部	<p>昭和54年より断酒会へ入会。自らのアルコール依存症の回断酒友の復体験から、アルコール問題に悩む人々に対して親身になって相談を受け、対応している。長年にわたるアルコール依存症の当事者またはその家族に対しての丁寧な接し方や、自らの実体験に基づいた話をされることで断酒会メンバーやその家族から絶大な信頼を得ている。</p> <p>また、アルコール問題を抱えている方を一人でも多く救いたいという強い思いから保健所などの関係機関にも積極的に足を運び、断酒会の周知に力を入れている。さらに宮崎県断酒会の都城支部の支部長を務めるとともに、講演会や県外ミーティングにも積極的に参加されている。保健所主催のアルコール講演会では実体験に基づいた講演をされ、参加者から多くの反響を得るなど、精神障がい者（アルコール依存症患者）の社会復帰と自立支援に向けて積極的に活動している。</p>

氏 名	住 所	所 属 職 種	功 績 概 要
ふるかわ けいゆき 古川 啓之	串 間 市	串間市 「話し相手ボ ランティア」 連絡会代表	<p>県外での「話し相手ボランティア」活動を経て、平成17年から串間市において、「宮崎県ボランティア協会」と連携し障がい者を支援している。</p> <p>平成19年に自殺防止の活動を実践するボランティアグループとして、串間市「話し相手ボランティア」連絡会を立ち上げ、独居老人や老老介護者宅への訪問、医療機関や高齢者福祉施設における定期的な話し相手等、関係機関と連携しながら、人に優しい街づくりを目指した活動は市民の目線に立った幅広いボランティア活動として、地域の自殺予防に多大に貢献している。</p> <p>また、地域の身近な住民の声を聴くことで、よりきめ細やかな、自殺予防に結びつけられるよう、自ら医療機関や串間市社会福祉協議会のサロン会(81地区、約1,800人)に出向き現在54地区の高齢者に「近くで動けない人、困っている人」の情報提供を呼びかけるなど精力的に活動の幅を拡げている。</p> <p>穏やかで優しい性格は関係機関やボランティアメンバーのよき相談役でもあり信頼も厚く、その活動は後に続く者の模範となっている。</p>
社会福祉法人 敬和会養護 老人ホーム 和幸園	日 南 町	社会適応 訓練事業所	<p>平成15年5月1日に社会適応訓練主として登録介護の資格を持ちながらも就労する機会に恵まれない精神患者に対して、施設内での話し合いを重ねながら環境を整え、関係機関と連携し、積極的に訓練生を受け入れるなど精神障害者の社会復帰に貢献している。</p> <p>和幸園和幸園では訓練生に対して職員全員で声かけし、日常的な悩み事などの相談にも細やかに対応しており、訓練生の心の支えとなっている。</p> <p>また、毎日の本人の訓練の様子や職員の支援内容について、細やかな記録と定期的なケース会議を開催し職員間の情報共有を図るなどの工夫を行い訓練継続に向けた取組に熱心である。なお、訓練士の訓練が一時中断した折には、医療機関や地域活動支援センター等の関係機関と連携し、職員全体での対応を検討し、訓練生に対して細やかな声かけを継続することで、訓練再開に結びつけるなどの取組を図った。</p> <p>施設全体で精神障害者の社会復帰に向けた熱心な取り組みは、後に続く者の模範となっている。</p>

表彰受賞者の声

「必笑!」の職場づくり

株式会社 虎屋 工場長 甲斐 哲見
(延岡市)

この度、思いもよらず宮崎県精神保健福祉連絡協議会会長表彰をいただきました。光栄なことと、たいへん有り難く存じております。

弊社の経営理念は「必笑!」と申します。笑顔は幸福感の象徴ですから、「必笑!」とは、「必ず幸せになる」ということでございます。ひとが幸せを感じる時は、どなたか人の役に立って喜んでもらったときではないでしょうか。仕事を通じて働く者同士、互いに「ありがとう」「お疲れさま!」と言葉を交わし、共に作り上げた美しくおいしそうなお菓子を見て、お客様の笑顔を想像する。自分が作っているのは「お客様の笑顔」だと気づくと、仕事への思いはさらに深まってまいります。

毎回、同じ時刻に、同じ職場へ出勤し、同じ従業員と共に仕事をする。そして成果を共有する。このことが、勤務時間の多少に拘わらず、精神障がいのある本人に自信を与えているのだと、職場づきあいを通じて実感しております。県内それぞれの地域で、障がい者の方と「役立つ喜び」を分かち合える心の開いた職場が、一つずつ増えていくことを願っております。これからも、私たちはチャレンジャーを応援していきます。



宮崎県断酒友の会

えびの支部長 川野 信広 (えびの市)

この度は協議会会長表彰を受賞させていただき、感謝申し上げます。

私は、平成8年にアルコール専門の精神科病院に入院しました。初めての入院でアルコール依存症と診断されて、これから先、酒無しの生活が不安でたまりませんでした。院内の自主グループ(断酒会)を知り例会に出るようになり、断酒会会委員の仲間みなさんと出会いがたくさんあり、4か月間の入院生活で退院する事ができました。

退院後すぐに地元の断酒会に入会させてもらって例会まわりが始まり県内はもちろん県外の例会にも、多くの仲間との出会いが出来て今日まで酒をやめさせてもらってます。(感謝)

今のところ自分達の断酒会会員数は少ないですが、行政などの支援をもらいながら月2回の例会に県内、県外の仲間が数多く参加して頂き意義ある例会が出来ています。

これからも私達は酒害に悩む人達に断酒の喜びを例会を通して伝えていく活動をしていきます。

都城支部 森山 健一（都城市）

断酒友の会に入会させていただき、おかげさまで断酒が今日まで続いています。

当時は、1日断酒、1日だけ飲まない、明日のことは明日考えると教えられ必死でした。

今でも1日断酒を守っています。

断酒して気付いた事があります。子ども達がこのどうしようもない父親に話しかけてくれるようになりました。私は嬉しくて嬉しくて涙がでました。決して人のために断酒した訳ではありません。自分の人生の為です。断酒を継続して行くのは、一人では大変な事です。仲間達の話聞きながら、許し合いながら、また自分自身のことを話しながらやっていきたいと思っています。

今回の表彰は思ってもいない事でした。表彰に恥じないように断酒を続け、今後は1人の会員として活動していきたいと思っています。



「地域に密着した活動を継続します」

串間市「話し相手ボランティア」連絡会代表 古川 啓之（串間市）

この度の表彰、誠にありがとうございました。

私どもの「話し相手ボランティア」の活動が皆様方の御理解を得て、そして今日まで多くの方々に様々なかたちで御支援いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

「話し相手ボランティア」は、在宅高齢者、一人暮らし、障害者、施設入所者などと面談し、会話を通じて積極的にかかわっています。

そのなかで日常生活の様々な問題、あるいは今感じている苦痛などをしっかり寄り添って傾聴し、そしてお互いに考え合うことで相談者の心の負担を軽減させ、生活意欲の増進、不測事態の未然防止をはかることを主眼に4年前に立ち上げたものです。現在20名の会員を擁しています。

ボランティアとして串間市全域で活動していますが、活動地域が広域であること、過疎地域が多いことなどから単独での情報収集、状況把握にかなり困難をきたしているところではあります。

そのために、串間市福祉保健課、社会福祉協議会、民生委員、各地区自治会などとの連携が欠かせません。たとえば、串間市では、社会福祉協議会が企画推進する「地区サロン会」が約70ヶ所ありますので、私どもも社会福祉協議会の御協力を得ながら、各地区サロン会をくまなく巡回訪問し在宅高齢者や一人暮らしの人の状況把握に努めているところです。

今後はさらに、地区民生委員、自治会長等との接点を深めながら、明るい地域社会づくりの一助として励みたいと思います。

徐々にではありますが、“寂しゅうてたまらんのじゃが、うちにも来てくれんかのー。”というお年寄りの要望がだんだん増えてきています。私どもの会員は“ハイ！喜んで！”とこたえて笑顔で現地に駆けつけることになっています。

まだまだ未熟者の多いボランティアグループでございますが、今後ともどうぞよろしく御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



活動の様子



ボランティアグループの皆さんと

社会福祉法人敬和会養護老人ホーム和幸園

園長 上原 健二（日南市）

この度、協議会会長表彰を受賞しましたこと職員一同喜びと同時に、大変恐縮しています。

私どもの職場に社会適応訓練生として、平成19年8月からAさんが就労しています。

Aさんは就労当時、明らかに回復途上にあり仕事・作業に対してはまじめで、担当外のお年寄りへの細かな気づきなど認められ、社会的規範を受け入れられる状態にありました。課題は対人能力及び環境適応能力面において安定した状態を維持することですが、実際の生活場面ではストレス、精神不安や怒りや落ち込みなど些細なことでもつまずくこともあります。

当初は、事業所として事前の受け入れ準備不足もあり、職員との連携不足などによるトラブルも見られました。また、家庭事情による精神的ストレスから体調不良の訴えもありましたが、施設見学も兼ね、御家族との話し合いを設けて仕事場の状況を理解いただいた。その都度、日南保健所及び医療機関ケースワーカーと話し合いながら、本人の立ち直りが図られてきました。

この経験を重ねることで職員の訓練生対応、メンタルケアの向上も図られたと思います。

Aさんは、途中1年ほどのブランクを経て、今日現在まで社会的自立へ向けて懸命に頑張っています。

事業所として、初めての経験の中で訓練生及び家族への相談・援助など、適切な地域資源の連携が欠かせないことを学びました。今回の受賞は、日南保健所担当職員・地元医療機関ケースワーカーとの連絡調整、協働実践のお蔭であります。両機関の担当者様に心から感謝いたします。

障害者の雇用促進、就労支援については、市町村、ハローワーク、福祉施設を含め一般企業者の理解と連携強化が大きな課題と思われます。

当園では、今後とも「ネアカ・ノビノビ・ヘコタレズ」優しさをキーワードに利用者の安らかな生活支援に努めてまいります。



第10回宮崎県障がい者スポーツ大会の結果について

日 時：平成23年5月8日(日)

場 所：宮崎県総合運動公園陸上競技場

宮崎エースレーン(ボウリング)、宮崎市身体障害者体育センター(卓球)

参加選手

選手	1,637人
役員	302人
ボランティア	313人
警察音楽隊	30人
<hr/>	
	2,282人

選手のうち精神障がい者

バレーボール	2チーム	23人
ミニバレーボール	16チーム	127人
グラウンド・ゴルフ	40チーム	262人
<hr/>		412人

バレーボール 優勝 江南よしみフェニックスにこにこクラブ(宮崎市)

第2位 江南よしみフェニックス(宮崎市)

※本年度優勝した江南よしみフェニックスにこにこクラブは、来年度開催の九州ブロック予選会出場の権利を獲得した。全国大会は岐阜県で開催予定。(ぎふ清流大会)

ミニバレーボール 優勝 1パート 若草クリニック(宮崎市)
2パート チームA(清芳会)(宮崎市)
3パート 谷口病院ゴーレム(日南市)
4パート 若草フェニックス(宮崎市)

グラウンド・ゴルフ 優勝 Aコース チーム「はにわ」(西都市)
Bコース チーム「さいと」(西都市)
Cコース たんぽぽ館(小林市)

《第11回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技九州ブロック地区予選について》

日時：平成23年4月23日(土)

場所：熊本県立総合体育館

出場チーム…第9回宮崎県障がい者スポーツ大会バレーボール競技で優勝した江南よしみフェニックスクラブが出場した。

九州ブロック大会で優勝した場合、全国大会(おいでませ!山口大会)への出場権を獲得することになるが、本県は2回戦から出場し、北九州市に1-2と残念ながら惜敗した。

なお、優勝は佐賀県。

第10回 宮崎県障がい者スポーツ大会に参加して

バレーボールの様子と今後の目標

江南よしみフェニックス

私達、江南よしみフェニックスクラブは、今年も例年のごとく障がい者スポーツ大会（バレーボールの部）に参加しました。私達は昨年度、宮崎県代表として九州大会に出場し、福岡県代表に惨敗し、一年間、打倒福岡を目指し、練習して来ました。私達はフェニックスチームと、にこにこチームに分かれ日頃より楽しく、中身のある練習を積み重ねて挑みました。今回の県大会は、私達の2チームしかエントリーしてはなく、仲間同士の対戦となりました。試合は楽しいムードで行われ、珍プレイ、好プレイが飛び交う中でそれぞれのチームがとてもリラックスした雰囲気で行われました。相手が決めれば、こちらが決めるという、とても張りのある面白い身内同士の戦いになりました。

試合は2対0でにこにこチームが優勝し来年度の九州大会の出場権利を得ました。県大会の優勝たては今回で6個目となりました。

只今、わきあいあいとした練習をしながら仲間作りをしているところです。

私達は楽しくやりながら、レベル向上を目指しています。

随時、参加者を募集しております。

若い方も年配の方も年齢を問わず、体を動かしたい方はどんな方でも入れます。

私達の江南よしみフェニックスクラブは、女性が不足しています。

女性の方も遠慮なく参加して下さいる事を願っております。女性大歓迎します。

初心者の方も、パスの仕方、レシーブの仕方、指導者が基礎から優しく教えます。

九州では、福岡県と佐賀県が強豪です。

私達も、例年、宮崎県では優勝していますが、年齢を積み重ねても、楽しく頑張っております。みなさん、力をかけて下さい。私達と一緒に九州を突破して、全国に行きましょう。



宮崎県障がいスポーツ大会に参加して

若草クリニックデイケア ケースワーカー 押川

H 23.5.8(月)に、スポーツ大会が実施され、若草クリニックはミニバレー1チーム・グラウンドゴルフ2チーム参加し、見事ミニバレーは優勝をすることが出来ました。ミニバレーは、デイケアの活動の中でも、特にメンバーさんに人気のスポーツです。週一程度のクリニック内での練習や、月二回の体育館で日々練習に励んでいます。今回は、中々出場メンバーが定まらず、不安なところもあったのですが、当日は日ごろの成果が発揮されて、すばらしい成績をおさめることが出来ました。私も、付き添いとして今年三回目の参加となります。優勝したことも嬉しいのですが、毎年、メンバーさんのいつも見られない笑顔や真剣な顔を見ると、『今年も参加できてよかった!また来年につなげたい!』と感じさせられます。最後に、メンバーさんの感想を載せたいと思います。

- 今年も参加できてよかった。
- 来年は各パートの優勝チーム同士で試合をしたい。
- 日ごろの練習の成果が出た。
- 仲間同士の結束力が強まった。

医療法人 清芳会 井上病院デイケア

清芳会 デイケアです!デイケアのプログラムの中に、毎週火曜日にスポーツクラブがあり、ミニバレー・グラウンドゴルフ・ソフトボール・ミニ野球をして、気持ち良い汗を流しています。

先日[平成23年5月8日(日)]、スポーツ大会があり、ミニバレーとグラウンドゴルフの部に参加しました。緊張しながらも、皆それぞれの力を発揮できました(お昼のお弁当も楽しみでした(^_^)!!)

下記は参加したメンバーさんの感想です。

毎年恒例の宮崎県のミニバレー大会が今年も行われました。

自分たちの病院は、今年は、2連覇が懸かってました。

病院からは、2チームが出場しました。

自分たちのチームは、Aチームでした。

毎週1回だけけどAチームは、練習でも頑張ったと思います。

自分は、中学、高校とバレーをしていたため慣れていたので、セッターをしました。

Aチームは、よほど勝てる気持ちが、強かったのか2連覇を達成しました。

Aチームは、試合でも練習通り実力が出せた自分、と思います。自分は、と言うと仕事をしながら、病院の練習も参加しました。

個人的には、バスケットボールでトス練習もしました。みんなのおかげで、2連覇が達成できて良い思い出になったと思います。仕事も忙しいけど良い経験になったと思います。 T. N

健康的で楽しいです。 木下 政治

昨年の大会は体調のコントロールが上手く出来なくて、出れなかったのですが、今年は無事に参加出来て良かったです。 児玉 美香

みんなと、楽しく練習して、優勝して、楽しかったです。 山本 秀夫

足をひっぱりながら頑張りました。 落合 育則

一生懸命に練習しましたが、本番では、半分の力しか出せませんでした。 HN

練習不足でした。次回頑張りたいです。 田吾作



ミニバレーボール（3パート）優勝チーム 谷口病院ゴーレム～メンバーからのひとこと～

日々、一日一日デイケアのスタッフを交えて、みんなの楽しいマッチ戦をやっていた
おかげだと思っています。
みんな楽しくのびのびしてやっていました。
これからもこういう雰囲気であれば、いつも大会でいい結果が出るとしています。
いつもとみんな何も変わらない、それがいいのでは・・・
やっぱり試合は楽しくなくちゃ！！これが優勝の鍵ではないでしょうか。

by Y・E

日ごろの練習から大会まで、いろんな事がありました。
苦しいことや楽しいこと。
大会では、練習の成果や特訓などでパーフェクトに近いゲームが出来ました。
来年も頑張って親睦を深め、また1位になりたいです。

by T・K

スポーツ大会に参加するのは、初めてだったので緊張しました。
1回目のサーブが入らなかった時はもうダメかと思いましたが、職員さんの声援で、
できるという勇気をもらい2回目は入りました。
ヘタな私ですけど、これからもバレーの練習を頑張っていきたいです。
来年もスポーツ大会に参加したいです。

by M・E



スポーツ大会当日 試合の様子

第10回 宮崎県障がい者スポーツ大会に参加して

☆西都病院デイケア「つきどん」メンバー一同☆

平成23年5月8日「第10回宮崎県障がい者スポーツ大会」が行われました。

小雨の降る中、バス1台とボンゴ車1台に乗り込み、いつもの場所・・・そう！木花の総合運動公園「木の花ドーム」へと、車を走らせました。午後からは晴れの予報に反して・・・目的地に近づく程に大雨になるわ・・・雷が鳴るわ・・・心配しましたが、メンバーの日ごろの行いが良いおかげで(笑)、絶好のグランドゴルフ日和になりました!!!グランドゴルフは、誰でも自分のペースで参加でき、メンバーさんに人気のあるプログラムです第5回大会からグランドゴルフの部門で参加しており、西都病院デイケア「つきどん」のテーマソングにもあるように「参加することに意義あり～♪」とはいうものの、優勝目指して近くの公園で練習してきました。

練習の成果もあり、出場3チーム中、2チームが見事に優勝を飾ることが出来ました。翌日には、デイケア内で、ささやかながら祝賀会を開き、お祝いをしました。



参加出場したメンバーさんの感想・コメントは・・・

「いつもの練習の成果が出て、良かったです。」

「自分自身の成績は悪かったけど、勝ててよかった。」

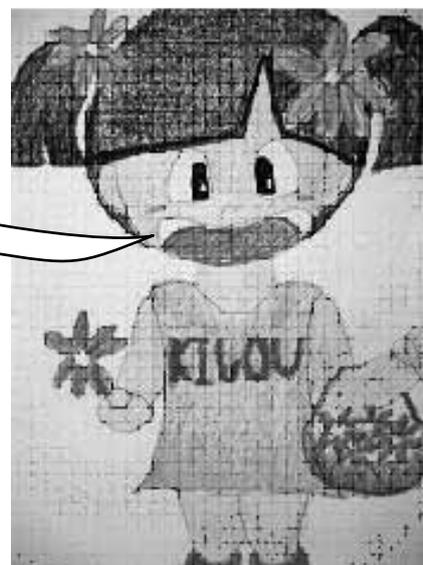
「素直に嬉しい。また来年も頑張りたい。」

「はじめは緊張したけど楽しかった。」

「バンザイ!!!勝てて良かった。」

「デイケアのみんなとプレー出来たのが良かった。」

お疲れさま



グランドゴルフと
コスモスが大好きな
「コズミちゃん」

応援者からの「スポーツ大会を通して・・・」

青き空、山の頂き重なりて、新緑香り胸弾むほど今回のグランドゴルフ優勝のドラマは、何となくドラマチック。

他の病院の人たちも頑張っただろうと思う。それ以上に西都病院は、練習に頑張った結果が、今度の結果発表。

お疲れ様。選手の皆様。。。(ピエロより)

☆西都病院チーム☆

第10回宮崎県障がい者スポーツ大会グラウンドゴルフの部

第三位西都病院からは男性7名が参加しました。練習回数も少なく準備不足な部分もありましたが、皆でコツコツ練習を重ね、大会中もフォローしあいながら無事に入賞する事ができました。

○参加された方からの感想○

- ・たくさんの方と話しながらプレーする事ができてとても良かったです。
- ・3位に入れて良かった。嬉しかった。
- ・とても楽しかった。また練習頑張ります。
- ・来年も頑張ります。次はホールインワンを目指します。
- ・緊張して上手くできなかった。

次回も入賞目指して練習を重ねていこうと思います。

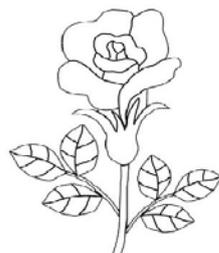


宮崎地域精神保健福祉協議会

当協議会は、宮崎市、国富町、綾町内の18の関係機関および団体で構成されています。
地域における精神保健および精神障がい者福祉の推進を図ることを目的に活動を行っています。

【こころの健康づくり講演会】

開催日：平成23年1月27日(木)
場 所：県立図書館
参加人数：92名
内 容：講演「前向きに生きるために
～自分に幸せのメッセージを～」
講師 バーバラ植村 氏



歌手で活躍中の長女（AIさん）の映像を交えて、楽しく話をされました。

アメリカから鹿児島に嫁いでこられて、現在までのご苦労とその生き方を明快な語り口でお話いただき、元気や感動、前向きに生きる意欲をたくさんいただきました。



【球技大会】

開催日：平成23年3月2日(水)
場 所：フェニックスボウル(宮崎市塩路)
参加人数：285名
成 績：優勝 高宮病院A
2位 ピアメンタルささきA
3位 はまゆう

年齢に関係なく参加できることが魅力の球技大会には、地域生活支援センターや作業所、医療機関等から多くの参加がありました。
楽しい交流の時間となりました。



【機関紙発行】

精神保健福祉に関する情報提供と、協議会の活動を中心に編集した、宮崎地域精神保健福祉協議会だより「ゆとり」(第15号)を発行しました。

日南串間地域精神保健福祉協議会

当協議会は、日南市、串間市内の21の関係機関並びに団体で構成されています。地域における精神保健福祉に関する知識の普及・啓発のための講演会や研修会及び会報「潮騒」の発行等の事業を行っています。

【自殺ゼロプロジェクト推進事業「こころの健康づくり研修会」 ～ひとりで悩まないで誰かに話してみませんか～】

開催日 平成22年9月21日(火)
場所 串間市総合保健福祉センター
内容

- 講演「自死遺族の痛み、共にできること」
～たくさんの遺族の方々との出会いを通して
学んだこと～
講師 「こころのカフェきょうと」
(自死遺族サポートチーム) 代表 石倉紘子氏

○活動紹介

- 《NPO 法人たかはるハートムの取り組み》
講師 NPO 法人代表理事 谷山天一氏
- 《串間市「話し相手ボランティア」活動の現状から》
講師 話し相手ボランティア連絡会代表 古川啓之氏
- 《NPO 法人みんなのくらしターミナルの取り組みより》
講師 原田聡美氏、大迫健二氏
- 講話「自殺の現状について」
講師 日南保健所健康づくり課主任保健師 戸高由佳里
- 参加者76名



【日南串間地域自殺予防研修会『多重債務の実態と解決法』】

開催日 平成22年11月24日(水)
場所 日南保健所 多目的室
内容

- 講演「借金、多重債務を抱えたとき・・・、その実態と解決法」
講師 日南ひまわり基金法律事務所 所長豊田裕康氏
- 参加者43名

【協議会だよりの発行】

精神保健福祉に関する情報提供と協議会の活動を中心に編集した、日南串間地域精神保健福祉協議会だよりの「潮騒第19号」の発行。



都城北諸地域精神保健福祉協議会

当協議会は都城市、三股町における精神保健福祉の推進を図ることを目的に活動しています。主な活動としては、作業所等への活動助成や精神障がい者支援ネットワークを結成し講演会やイベントの企画、協議会だよりの作成を行っています。

【実行委員会・企画作業部会の開催】

精神保健福祉大会の開催にあたり、都城北諸地域精神保健福祉協議会は実行委員の一員として活動しました。地域の自助グループや病院・作業所のスタッフ、管内市町職員等に企画作業部会に入って頂き、大会内容詳細について検討しました。



【第50回宮崎県精神保健福祉大会開催】

日時：平成22年10月26日（火）

場所：都城市総合文化ホール

県内各地から1400名の参加があり、精神障がいへの理解を深めました。



【協議会だより「オアシス」の発行】

平成23年3月に協議会誌だより「オアシス」を発行しました。

精神保健福祉大会の様子や管内の社会資源について紹介をしています。



西諸地域精神保健福祉協議会

西諸地域精神保健福祉協議会では、小林市、えびの市、高原町における精神障がい者の福祉の増進と地域における精神保健の向上を図ることを目的に活動しております。

【こすもす祭】

精神障がいへの理解を深めていただくことを目的に、平成22年11月30日に高原町総合保健福祉センターほほえみ館において、文化交流会（通称：こすもす祭）を開催しました。当事者や家族、ボランティア、地域住民の方々など約300名の参加がありました。精神障がい者ご本人の体験発表や日ごろの想いを「つぶやき」としてメッセージにし、伝えていただきました。参加された方々から、「心に響く言葉でした」「一生懸命で前向きなのに感動しました。」など、多くの感想をいただきました。



「つぶやき」 ♪♪当事者の方々の日ごろの想いです。

<p>きっと すばらしい1日になる</p> <p>神様は毎日 ひとりひとりにプレゼントをくれます</p> <p>今日というプレゼントです</p> <p style="text-align: right;">みどり</p>	<p>生きるということ</p> <p>簡単に生きるっていうけど みんな 一生懸命生きています。 すごく 死という選択肢を 何回も選んでしまうことが 誰かしらあると思います。 その 暗闇の中で たったひとつの光でさしこむこと を 僕は心から望みます。</p> <p style="text-align: right;">さくらのさくら</p>
--	--



当事者や地域のボランティアの方が一緒になって、参加者の方々とエコバック作りをしたり、コーヒーサービス、お抹茶のふるまいを行いました。



西都児湯地域精神保健福祉協議会

西児湯地域精神保健福祉協議会では、西都市、高鍋町、新富町、西米良村、木城町、川南町、都農町における精神保健及び精神障がい者福祉の推進を図ることを目的として講演会、レクリエーション交流会などさまざまな事業を行っています。

【管内レクリエーション交流会】

平成22年12月1日に、川南町農村改善センターで、風船パス、仲良くなろうゲーム、言葉遊び、歌って遊ぼうなどのレクリエーションを行いました。

参加団体は、西都病院、新富町デイケア、高鍋町もくせい会、都農町いちょう会、川南町精神障害者福祉会、当事者会「太陽の恵」の6団体で、ボランティアの方々にも御協力いただき総勢102名が参加し、互いの交流を図りました。



【こころの健康づくり講演会】

※高鍋保健所と共催

日 時：平成23年2月9日

場 所：新富町文化会館

参加人数：150名

内容

1) ミニコンサート（フルート、ピアノ演奏）

・講演前に30分と短い時間でしたが、ユーモアを交えての曲の説明進行など心癒される時間を作っていただきました。

2) 講演 「笑う門には福も健康も来たる」

～すごいぞ！笑いのパワー～

講師 大平哲也氏（大阪大学大学院准教授）

・「笑い」がもたらす効果をさまざまな研究結果を基に科学的にかつ楽しくわかりやすく説明していただきました。また、日常生活において笑いを増やす方法、笑いを生かした効果的なストレス解消法、「笑いヨガ」の実践を行っていただき、大変好評でした。



【地域移行に関する研修会】

※NPO法人宮崎県精神保健福祉連合会と共催

日 時：平成23年2月24日

場 所：西都市コミュニティセンター

参加者：108名

内容

1) 講演 「精神疾患の正しい理解のために」

講師 泉武康氏（日本精神科看護技術協会県支部理事）

2) 体験発表

当事者、家族の方から、経験したからこそわかる病気の大変さなど、感じたこと思いや今後の目標などについて一生懸命話されました。



日向入郷地域精神保健福祉協議会

当協議会は、日向市、門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村内の28の関係団体と146人の賛助会員により構成され、精神保健及び精神障がい者福祉の推進を図ることを目的に活動しています。



【こころの健康づくり講演会】

平成23年1月28日、椎葉村総合保健センターすこやか館で開催しました。

内 容：講 演

演 題：「自殺防止とうつ病について」

講 師：瀧井 修 先生

(瀧井病院理事長)

参加者 61名

講演では、うつ病と自殺の現状や対応のあり方について「うつ病の陰には自殺があること」「うつ病は早期に治療すれば治る病気であること」等のお話がありました。

【さわやか交流会】

平成22年11月10日、サンドーム日向において開催しました。医療機関や市町村のデイケア、作業所などから101名の参加がありました。

恒例となった玉入れは、混合チーム内で声をかけあい協力してプレイする姿や他チームの応援も見られるなど大変盛り上がりしました。

参加者からは、「みんなと一致団結できた」「来年度もまたしたい」などの感想が発表され、笑顔が絶えない交流会となりました。



【家族会合同研修会】

平成22年12月20日、日向保健所で開催しました。

内 容：(1) レクリエーション (音楽療法)

(2) 交流会

参加者：24名

家族会からの要望で、昨年度に引き続き、音楽療法を取り入れたレクリエーションを行いました。おじゃみを使ったゲームやカラオケ等でご家族のリフレッシュを図り、会場は笑顔と笑い声が絶えないものとなりました。また、交流会では、家族会の存続や若い世代の取り込みについて等、貴重な意見交換の場となりました。

延岡地域精神保健福祉協議会

当協議会は、延岡市における精神保健及び精神障がい者福祉の推進を図ることを目的として、延岡地域スポーツ大会、こころのコンサート、『こころの広場』発行などさまざまな事業を行っています。

【延岡地域スポーツ大会】

平成22年10月22日、17回目となる大会を延岡勤労者体育センターと妙田公園において開催しました。

病院の入院患者さん、通院患者さんや当事者会である「仲間の会」、社会福祉施設通所者等のメンバーが、ミニバレーボールとグラウンドゴルフを通して交流を図っています。

今回は141名の参加がありました。ミニバレーボールは吉田病院Bチーム、グラウンドゴルフは延岡保養園Aチームがそれぞれ優勝しました。グラウンドの状態が悪かったものの5名の方がホールインワン賞を受賞されました。熱いプレーで大変盛り上がりのある大会となりました。



【こころのコンサート】

平成22年12月21日、ハーモニーホールにて開催しました。今年で5回目となりますが、年々参加者が増えており、会場が満席になるほど多く参加がありました。

延岡地域だけでなく、高千穂地域からも参加してください、大いに交流を深めることができました。こころのこもった歌や流行のダンス、バンド演奏、相撲甚句等が披露され、笑いあり、感動ありのコンサートとなりました。

毎年恒例の大抽選会では、今年も特別賞が用意されており、当たった方から「やったー」と喜びの声があがっていました。



【こころの健康づくり講演会】

日時：平成23年2月4日（金）

場所：カルチャープラザのべおか ハーモニーホール

参加者：68名

内容：講演「色を取りいれて

日常生活を楽しく暮らしましょう」

講師 三浦南海子 氏（パーソナルカラーリスト）

似合う色とはその人が健康的に見える色のこと。色の映え方は個人で異なり、似合う色を見つけていくことが大切。色を意識していくと楽しく過ごせる。普段から明るくきれいな色を身につけたり、見るようにして、色を楽しんでほしい、と話されました。

色の違いによる顔色の映え方、自分に似合う色などを、色の布を用い、互いに比べて見つけていくという実践を織り交ぜての講演で、和気あいあいと笑顔あふれる時間を過ごしました。

【こころの広場】

心の健康づくりと精神障がい者支援、精神保健福祉情報の提供を目的として、年1回発行し、会員、関係機関、当事者及び家族、ボランティア等へ配布しました。

西臼杵地域精神保健福祉協議会

当協議会は、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町における精神保健及び精神障がい者福祉の推進を図ることを目的として、現在団体会員（24団体）、個人会員で運営し、啓発活動を中心に事業を進めています。

【ニュースポーツによる交流会】

平成23年3月5日（土）高千穂町武道館において、障がい者ふれあいレクリエーション大会を開催しました。

国見ヶ丘病院・高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町デイケア参加者はもとより、高千穂焼作業所・あまてらす・一歩会のメンバー、スタッフなど、総勢148名の参加の中、短い時間ながらも競技を楽しみました。

アトラクションとして、高千穂スポレク愛好会のみなさんが神楽や高千穂を題材にしたダンスを披露し、和やかな雰囲気で大大会がスタートしました。

この大会は、障がいの有無に関わらずニュースポーツで楽しみ、ふれあいや交流の場を通して、障がいのある人の社会参加の促進と地域住民が障がいのある人への理解を深めることをねらいとしています。

ゲームでからだを動かした後は、参加賞を受け取り、豚汁とおにぎりを食べながら、話も弾み楽しいひとときを過ごしていました。



【啓発誌の発行】

「精神保健福祉たかちほ17号」を発行し、平成23年3月に会員と西臼杵地区全世帯に配布しました。

【西臼杵地域精神障がい者地域移行支援事業】

受入条件が整えば退院可能な精神障がい者の退院促進、さらには、地域で健康に暮らすための連絡・調整を図るネットワークを関係機関により組織し、西臼杵地域における精神障がい者への生活支援を行うことを目的として、ピアサポーター派遣事業、スタッフ向けのピアサポーター養成のための研修等を実施しました。

ピアサポーター派遣事業では、在宅で暮らす方と入院患者さんが交流することにより、在宅生活のイメージがわき、作業所等での仕事や退院について考える良い機会となっています。



精神障がい者支援組織・グループの動き

「家族が求める支援とは、訪問型で、24時間・365日支援体制！」

特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会

平成21年に全国精神保健福祉会連合会が全国の家族会会員に対してアンケート調査が行われた結果、「私たち家族の7つの提言」としてまとめられました。そのうちの上位1・2が特に在宅で同居している家族にとって特に求められている項目と考えています。

1、「本人・家族のもとに届けられる訪問型の支援・治療サービスの実現」本人が自発的に受診できない場合や病状が悪くなった時の訪問による治療、支援の場やサービスにつなぐことができない本人に働きかけるための訪問型の支援が必要です。訪問によって本人・家族に個別化した支援・治療を継続的に提供するサービスの実現を求めています。

2、「24時間365日の相談体制の実現」困ったとき、いつでも専門家に相談できる場があれば安心です。夜間・緊急時に困難を抱えながらも相談先が見つからない本人・



家族は少なくありません。24時間・365日の相談支援体制が必要です。また、緊急時はもちろん、日々の対応や生活の見通しをどのようにもてばいいのかなど、日常的な相談が気軽に安心してできる場も家族は求めています。

以上のように家族が具体的に求めている支援が明確になったことで宮精連としては、会員のニーズに如何に答えていくかということを考えるのがミッションなので、24時間・365日・訪問による支援ということで調べた結果、現在そのような支援を実践しているのが包括型地域生活支援プログラム(ACT)であり、その有効性は多くの先進諸国で実証されていることがわかり、我が国におけるACTの先駆けであるACT-Kの主宰者・高木俊介氏(京都・高木クリニック)を平成22年10月16日に宮崎に迎えて、その理念と実践について直接先生からご講演頂く機会を実現しました。

当日は、200名ほどの家族・当事者・関係者に参加していただき、関西弁で流暢なウイットに富んだ話し方に1時間30分アツという間に時間が過ぎました。

これからの地域における医療福祉の支援としてACT-Kの支援の事例を交えながら話をされ、何も入院という限られた空間での生活ではなく重症の精神障がい者でも地域で支援していけば充分地域生活は可能であると話され、入院では病気・障害が回復するどころか施設病を併発して悪くなり、日常生活する上での適応能力が低下していくのが現実であると話される。

精神に障がいがあっても、地域の中で全人的に受け入れられることで回復に繋げていき、地域で認められ、支援したり、されたりしながら共に生きることが人間としての本来の生き方ではないですか、と話される。

最後に、今回の講演会にボランティアで参加して頂いた看護大生のレポートから『私が一番心に残ったことは、「回復」という意味についての先生のお言葉です。「回復とは、病気自体の回復という意味ではなくて、その人の人生の権利を回復するという意味」という言葉に、とても共感し、感動しました』



悩んでいませんか？

あなたは、自分の飲酒問題で悩んでいませんか
酒が原因で体調を崩しているのに
断酒は勿論、節酒もできないで焦っていませんか
前夜の記憶がすっぱ抜け、不安を感じていませんか
友人や職場の上司に注意されていませんか
子供の目を恐れていませんか
離婚話がでたことはありませんか

巻き込まれていませんか？

あなたは夫(妻)子供(親)の酒に巻き込まれて
疲れ切っているのではないですか？
酒を隠したり、捨てたり、
飲み屋に飲まさないように頼んだり
なだめたり、すかしたり、説教したり、怒鳴ったりと
大変な毎日が続いていますか？

断酒会とは？

断酒会とは、昭和33年に誕生した酒害者
による、酒害者のための自助組織です。誕生
5年後の昭和38年には、全日本断酒連
盟という全国ネットワークが完成し、現在
北は北海道より、南は沖縄県に至るまで
47都道府県に約650の断酒会が結成さ
れ、多くの会員・家族が酒のない新しい人
生を明るく生きています。

私達、社団法人 宮崎県断酒友の会は、地域
住民の幸せな家庭づくりのお役に立つよう
に活動していく事を目的に、昭和45年に
設立されました。

飲酒運転根絶キャンペーン

11月10日は「断酒の日」

11月10日は「断酒の日」です。昭和38年11
月10日に断酒会は結成されました。この日を全
国民的な運動に展開するために昨年より飲酒運
転による事故防止と、根絶を願って、全国の断
酒会が一斉に街頭ビラ配布を行いました。
断酒会が、なぜ飲酒運転根絶キャンペーンを行
うのかそれは・・・常習飲酒者（アルコール
依存症者）がいるから飲酒運転があとを絶たな
い。
飲酒運転根絶はアルコール依存症者の治療と断
酒継続のための断酒会への入会キャンペーンで
もあります。



自殺予防とアルコール

自殺、うつ病、アルコール依存所が「死のトライアングル」と言われています
自殺予防はアルコール依存症からの回復を目指す自助グループ断酒会の目的でもあります
また、アルコール依存症でな人も、飲酒は自殺を併発するリスクは高い。

思い切って、最寄りの断酒会を見学してみませんか。あなたと同じ悩みを解決し
酒のない楽しいライフスタイルをつかった仲間たちが、あなたを暖かく迎えてくれます

(社)宮崎県断酒友の会事務局 米崎邦雄【電話・FAX】0985-53-6030【携帯】090-8833-2163

公益社団法人 全日本断酒連盟ホームページ <http://www.dansyu-renmei.or.jp>

ルピナス倶楽部の動き

会 長 川越 竹光

ルピナス倶楽部も発会しまして早6年目に入りました。発会当初は、50数名いました会員・協力会員も減少の一途をたどり現在では、27名の会員・協力会員の会と成りました。少し寂しい気もしますが、ルピナス倶楽部の役員一同めげずに会報「ひまわり」を発刊、発送を通じて県内の当事者、一般市民に発信し続けています。

ルピナス倶楽部の役員自体も昨年、当事者である事務局長をしておりました吉井氏が、30代の若さで死去しまして大変残念です。吉井氏は、2000年4月に発会しました自助グループ宮崎ひまわりの会の頃からの私の片腕でありました。ルピナス倶楽部は、協力会員もいますが、当事者である会員が現在11名しかいません。役員のポストが、現在3名空いていますが、ルピナス倶楽部の会員内には、なり手がいません。現在のルピナス倶楽部は、会員の人材不足と言ったところでしょうか。

私としましては、宮崎市内の当事者で、やる気があってルピナス倶楽部に興味のある方は、ぜひ宮崎市内にあります宮崎県精神保健福祉センター（TEL0985-27-5663）に電話しまして保健師の松尾さんにルピナス倶楽部のことを聴いていただいて会長である川越まで電話くださればありがたいと思います。

現在のルピナス倶楽部の内情は、こんな風なので今年度も早いもんで1/3程度過ぎ去りましたが、当事者の集まり地域生活支援センターを2ヶ所ほど廻ってみまして、ルピナス倶楽部への入会の啓発活動をやってみようかと思っています。

しかし、自助グループ宮崎ひまわりの会の頃から県内あちこちと廻って会への入会の啓発活動は、やってはきましたが、なかなか難しいものがあります。魅力ある会作りとは、何かと私としましては頭を痛めております。

本会は、まだ知名度のなさも伺えますが、当事者の皆さんとの日々の生活の慌ただしさや病院や市町村のデイケア事業、地域生活支援センターで満足している感も伺えます。

でも県内の当事者の中には、今年はまだありませんが、私によくならない自分の病気のこと、今死にたいだけだとか、恋愛のこととか電話相談が1年に1回くらいの割合であります。相手の話を聞き流していればいいのですが、私の胸に迫ってくるものがあって返答にハタハタ困ります。

ルピナス倶楽部の会則の中にもピア・カウンセリングをやっていこうと言うことが盛り込まれているのですが、プライバシーの問題、人材育成、資金面、研修等ピア・カウンセリングには、時間とお金が必要なので現在に至るまでルピナス倶楽部としては、ピア・カウンセリング事業には、足を踏み込んでいません。ですが、このピア・カウンセリング事業はルピナス倶楽部のユメでもありますので役員一同いずれば、やらなければ行けないと思っています。

最後に今年の3月11日に東日本大震災が、発生しましたがそれにより大勢の人々が、犠牲になり今もお被災者は、避難所での大変な生活をされていますが、今、日本中で絆と言う言葉、人と人との心の繋がりを強調していますが、まさにそれにつきると私は思います。

又、絆は、協力、助け合い、共生とも取れると思います。現在の薄れ行く絆を見直してみませんか？現代の自殺問題、障害者の問題、高齢者の問題にしましても人と人との心の繋がり「絆」が大切かと私は思います。

障がい者の就労促進等に取り組む事業所

障害者ピア活動実践促進事業について

社会福祉法人 清樹会
地域生活支援センターすみよし

すみよしでは宮崎市より障害者ピア活動実践促進事業の委託を受け、現在3名のピアスタッフが以下の業務で活動しております。

1. ピアカウンセリング学習会（すみカン、当事者研究）の運営
2. 相談対応（来所、電話、訪問）
3. ピア活動普及のための講師派遣（県内各地）
4. 精神障がい者地域移行支援事業のピアサポーターの派遣

1. ピアカウンセリング学習会（グループでのピアカウンセリング）

☆すみカン（毎月第1火曜日 15:30～17:00）

ルールを守りながら、自分の体験を自分の言葉で語り、仲間のお話を誠実に聴くことであたたかい気持ちになります。信頼関係を作るために守秘義務を守ります。（兒玉）

☆当事者研究（毎月第3火曜日 15:30～17:00）人間関係でのパターン、病気についてのテーマをもとに、自分で自己病名をつけて、仲間達と一緒に、ワイワイ、ガヤガヤと楽しく一緒に研究していきます。（長友）

2. 相談対応（個別のピアカウンセリング）

現在は月に8日（すみよしの広報紙にて相談日はご案内）ピアスタッフによる相談日を設けており、ピアスタッフが来所、電話相談（ピアトーク）、訪問にて相談をお受けしております。



←（左より長友さん 兒玉さん）
（写真右：平成23年2月には高千穂保健所より依頼を受け、長友、兒玉でピアサポーター養成のための研修の講師も務めてきました。）



3. 講師派遣

県内各地へピアカウンセリングの普及を目的として、ピアスタッフの講師派遣も行なっております。

4. 精神障がい者地域移行支援事業でのピアサポーターの派遣

スタッフと一緒に入院中の患者さんへ面会や外出等の支援を行います。

「地域生活の楽しさを伝えられる事は嬉しい事です。」

（ピアスタッフ藤崎さん）



変わりゆく「ほとくり作業所」

特定非営利活動法人ほとくり会
理事 吉田 育弘

1 はじめに

作業所の名前である「ほとくり」とは、俗名で雑草の名前である。正しくはイネ科メヒシバ属になり正式にはメヒシバと呼ばれている。南九州では、ほとくりと呼ばれており、夏になれば日本のどこの畑にもはびこる雑草で踏まれても踏まれても起き上がって成長するところから、作業所の名前を「ほとくり」と名付けられた。

平成2年に東諸県郡（国富町、綾町、高岡町の3町）管内に居住する精神疾患の家族会が役場の支援を受けて作業所を立ち上げ運営することになった。当初は、無認可の施設で通所者も6～7人、工賃も請負仕事だけで3000円程度であった。職員は、常勤1名のみであとは3町の家族会の会長が持ち回りで、週に1～2回程度作業所に顔を見せるくらいであった。

2 特定非営利活動法人（NPO法人）の立ち上げ

平成18年4月に障害者自立支援法が成立したが、成立に伴って、法人化していない作業所には補助金が出ないということになったので、急いで法人化（NPO）し、運営も家族会からNPO法人ほとくり会に代わった。

18年ごろから利用者は徐々であるが毎年増え続け、その結果作業所は手狭になり、利用者のストレスがたまることもあった。又、仕事もこれまでの請負仕事に加えて柑橘類のマーマレード、ジャム類の製造、販売をも手掛けるようになった。

ところが、職員は常勤1名、非常勤1名のみのものであるので、利用者に対しての気配り、目配りに間隙が生じることもあった。いわゆる作業所の運営管理上に問題点が生じてきたのである。

3 新しい作業所の設置と事業内容の変更

そこで、手狭になった作業所を新設し職員を増員するには、事業内容を「就労継続支援B型」に移行し同時に「障がい者自立支援基盤整備事業」の適用を受けるしかないと判断し、今年の3月1日、就労継続支援B型事業に移行、職員を常勤3名、非常勤3名の6名体制として、その内1名を当作業所の利用者を雇用することとした。さらに、3月15日、綾町に新設作業所を開設し国富町と綾町の二つの作業所を運営管理することとした。



4 今後の展望・問題点

これまでの事業活動は宮崎県を中心としていたが、今では東京、大阪にまで県の特産品である千切り大根、日向夏マーマレードを販売するに至っている。

この先は、農産物に重点を移して都会を中心として販売しようとスタッフと考えているところである。宮崎県内では素人の我々では地産地消は難しい。しかし、食糧自給率の極めて低い東京、大阪では比較的容易である。地産他消の方がよい。その手始めに、4月にカボチャ、サトイモ、ショウガなどの作付けを終え、つい先日、商談先の大阪黒門市場（青果店）から当ほとくり作業所の畑の視察にこられた。ところが価格と量でなかなか接点が見いだせず再度交渉することになった。安全でよい物をつくれれば売れるという我々の素人考えはプロには通用しないと痛感した。

持続可能な作業所にするためには、さらに深化、特化する必要がある。又、スタッフの世代交代も視野に入れておかななくてはならないと考える今日この頃である。



障害者スポーツ大会



作業所室内作業



NPO法人西諸地域活動支援センター菜の花 (障害者地域支援センターⅢ型)

<沿革>

西諸地域活動支援センター菜の花は、平成12年6月小林市の家族会が主体となって小規模作業所として開設されました。その後、障害者自立支援法の施行に伴い、平成19年4月からNPO法人西諸地域活動支援センター菜の花として、地域の精神障がい者の自立支援に携わっています。

現在、指導員1名、ボランティア3名、通所者16名です。

<作業内容>

23年2月から手作りのクッキー、パン、マドレーヌをみんなで作り販売を始めました。ボランティアの甲斐茂子先生に何度もパン・お菓子作りの御指導をいただきながら試作品を作り腕をあげました。今では菓子製造及び販売許可もとり、「菜の花堂」という商号登録を行い、週4日の通所日のうち、2日～3日は午前中にパン・お菓子作りを行って販売しています。販売先は会員制で、通所者が数人のグループになり作業所の車で配達しています。

NPO法人西諸地域活動支援センター 菜の花「菜の花堂」開店



クッキー作り担当です。
1個1個丁寧に切り、トレイにのせます。



女性は主に、マドレーヌ作りを担当しています。



パン作り担当です。発酵させたパン生地を1個ずつ同じ分量に切り分けます。



オーブン担当です。焼き加減を見ながら向きを入れ替えています。

この他、作業所では季節毎にレクリエーションに出かけたり、クリスマス会を行ったり、県外への視察研修へ出かけたり、年間を通して楽しく過ごしています。通所者は、パン・お菓子作り始めてから、作業所外の地域の人達との交流も増えてきました。これからは、障がい者自身が地域へ出て、精神障がいを理解してもらえるような情報を菜の花から発信していきます。

こころの駅 ハッピーパークについて

特定非営利活動法人 ハッピーデイズ
理事長 清 岩男

こころの駅 ハッピーパークは、富養園跡地活用事業として平成23年4月1日より事業を始めています。ここでは、ノーマライゼーションとバリアフリーの実践の場として、「障がい者福祉サービスの充実」と「地域福祉社会づくりの推進」をしています。

「障がい者福祉サービスの充実」では、「相談支援と就労支援」を行います。それにより、当事者の方のニーズに応じて総合的・複合的な福祉サービスの提供やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用して、当事者の利便性を図り、QOLの向上や社会生活力を高め、地域での自立生活や自己実現を支援していきます。

とは云え、ニーズがあるからそれを全て支援していくというものではありません。私は、障がいがあっても其々に素晴らしい考えや能力を持っておられることを今までの経験で知っています。



ですから、本人の状態や能力を確かめ、そして出来ることには努力を求めて、本当に必要なものでどうしても出来ないことを、どうしたら出来るようになるかの支援をしていきます。つまり、自分で出来ることは自分でやる、出来ないことは助けてもらう、そのようにして自分自身の喜びや夢・目的に、ある時には苦しみ、ある時には我慢し、ある時には笑顔でそして努力をしながら一歩ずつ向かって行く・・・それに大切なことは、感謝をすることと、自分が出来ることで地域へ貢献することです。

自分で決めて自分で責任をもって生きていくことが、人生を豊かに幅広くしていくと思います。

「地域福祉社会づくりの推進」ではお互いに支えあい、安全で安心して生活できる地域生活の福祉的環境を創る努力をしていきます。

今や福祉は、特定の人だけが受けるものではありません。全ての人に必要だと考えています。そのために、こころの駅 ハッピーパークでは①スポーツ・文化・芸術などを通じて相互の交流を図るために、運動場や会議室などの場所の提供とその活動支援②主体的な講習会や研修会、レクリエーション交流などを実施③情報の発信や提供を行い、お互いを知ることで病気や障がいに対する正しい知識と理解を深めて、特にこころのバリアフリーを進める④子どもから高齢者の方、障がいがあろうとなかろうと、誰でもが来ることができ全ての人たちが其々の楽しみをもてるような公園としていきます。



また、日常生活での悩みの相談、心に余裕を取り戻すことや気分転換、ストレス解消など憩いの場とすることで、その人らしい生き方を追求し、豊かな生活の支援をしていきます。

宮崎県精神保健福祉連絡協議会だより

平成 22 年度事業実績

1. 会議開催

(1) 第1回総会(平成22年5月26日)

- ① 役員の改選について
- ② 平成21年度事業実績について
- ③ 平成21年度決算について
- ④ その他
 - ・第50回(平成22年度)精神保健福祉大会(都城市)の開催について
 - ・第9回(平成22年度)宮崎県障がい者スポーツ大会の実績について
 - ・第60回(平成24年度)精神保健福祉全国大会の開催について
 - ・第51回(平成23年度)精神保健福祉大会の開催地の検討について

(2) 第2回総会・理事会(平成22年8月11日)

- ① 役員の改選について
- ② 精神保健功労者に対する「平成22年度宮崎県精神保健福祉連絡協議会会長表彰」の選考について
- ③ 精神保健福祉みやざき(第50号)の発行について
- ④ 報告事項
 - ・第50回精神保健福祉大会の進捗状況について
 - ・「みやざき青Tねっと」登録エリア拡大について
 - ・(仮称)こころのハンドブック作成について
- ⑤ その他
 - ・自殺対策フォーラムについて
 - ・口蹄疫の影響について

(3) 第3回総会(平成23年3月8日)

- ① 平成22年度事業計画の変更について
- ② 会計規程の改正について
- ③ 平成23年度事業計画について
- ④ 平成23年度予算について
- ⑤ その他
 - ・第50回(平成22年度)精神保健福祉大会開催について
 - ・都城大会における体験発表について
 - ・平成23年度第1回総会の日程案について

2. 大会開催

- (1) 第9回障がい者スポーツ大会
平成22年5月9日(日)宮崎県総合運動公園ほかで開催
参加者 2,132名 (うち選手数 1,415名)
- (2) 第50回精神保健福祉大会
平成22年10月26日(火)都城市総合文化センターにて開催
参加者 1,258名

3. 精神保健福祉功労者表彰

- (1) 県大会時表彰状授与 5件(個人4名、企業団体1グループ)

4. 支援・助成

- (1) 宮崎県精神福祉連合会(助成額 30万円)
- (2) 宮崎県断酒友の会(助成額 5万円)

5. 普及・啓発

- (1) 機関誌「精神保健福祉みやざき(第50号)」の発行・配布(1,500部)
- (2) 啓発誌「心の健康(No.65)」の作成・配布(4,000部)
- (3) 専用ホームページの運用
 - ・自立支援医療(精神通院)指定医療機関等一覧の更新
 - ・精神保健福祉みやざき(第50号)の掲載
- (4) 検索システム「こころ安心・相談ネット(愛称:みやざきこころ青Tねっと)の運用
県北地域へのエリア拡大は鳥インフルエンザ発生により中止。
- (5) 「自殺予防週間」関連キャンペーン活動
 - ・自殺予防フォーラム(8月29日開催)
 - ・リーフレット(口蹄疫関連3種、新燃岳関連1種)

6. その他

- (1) 九州精神保健福祉協議会理事会(佐賀県) 平成22年11月19日開催
- (1) 全国精神保健福祉協議会総会(沖縄県) 平成22年10月28日開催 欠席

平成 23 年度事業計画

1. 県大会開催

- (1) 第 51 回「宮崎県精神保健福祉大会」
平成 23 年 11 月 8 日開催予定、会場：宮崎市民文化ホール
- (2) 第 9 回「宮崎県障害者スポーツ大会」
平成 23 年 5 月 8 日（日）開催予定、宮崎県総合運動公園他（宮崎市）

2. 精神保健福祉功労者表彰

（第 51 回精神保健福祉大会時に表彰状授与予定）

3. 普及啓発事業

- (1) 機関誌「精神保健福祉みやざき（第 51 号）」の発行・配布（1200 部）
- (2) 啓発誌「心の健康（No 66）」の作成・配布（4000 部）
- (3) 広報媒体「専用ホームページ（HP）」の運用
ホームページアドレス <http://www.miya-seiren.com>
- (4) 「こころ安心・相談ネット（青Tねっと）」の運用
ホームページアドレス <http://www.m-aot.net>
- (5) 「青Tねっと」登録機関拡充事業（地域自殺対策緊急強化基金事業）
検索ネット青Tねっと上の相談機関及び集いの場等の新規登録促進事業
- (6) 「自殺予防啓発活動基金」事業
一般県民向けの販売用の啓発グッズを製作する基金事業
- (7) ビデオ・図書類等の貸し付け
- (1) 自助グループ活動への助言・支援

4. 各種団体に対する助成

- (1) 精神福祉連合会が実施する啓発活動（講演会、情報誌、ホームページ）への助成
- (2) 断酒友の会が実施する啓発活動（研修会、断酒教室、機関誌）への助成
- (3) ルピナス倶楽部が実施する啓発活動（ルピナスフォーラム等）への助成

5. 総会・理事会の開催

- (1) 第 1 回総会（平成 23 年 5 月末頃開催予定）
最終決算・事業実績承認、協議会・団体活動報告、精神保健福祉大会など
- (2) 第 1 回理事会（平成 23 年 8 月下旬頃開催予定）
表彰者決定、機関誌発行、事業進捗報告など
- (3) 第 2 回総会（平成 24 年 3 月下旬頃開催予定）
当初予算・事業計画決定、事業日程・新規案件協議など

7. その他（関係団体）

- (1) 九州精神保健福祉協議会理事会（平成 23 年 11 月下旬頃）
- (2) 全国精神保健福祉連絡協議会総会（平成 23 年 10 月下旬頃）

宮崎県精神保健福祉連絡協議会 役員名簿

平成23年8月現在

役 名	氏 名	役 職 名
会 長	三 山 吉 夫	宮崎大学 名誉教授
副 会 長	高 宮 眞 樹	宮崎県精神科病院協会 会長
常 務 理 事	渡 路 子	宮崎県精神保健福祉センター 所長
理 事	後 藤 勇	宮崎地域精神保健福祉協議会 代表
理 事	谷 口 浩	日南串間地域精神保健福祉協議会 代表
理 事	藤 元 登 四 郎	都城北諸地域精神保健福祉協議会 代表
理 事	内 村 大 介	西諸地域精神保健福祉協議会 代表
理 事	中 林 永 一	西都児湯地域精神保健福祉協議会 代表
理 事	田 中 洋	日向入郷地域精神保健福祉協議会 代表
理 事	吉 田 建 世	延岡地域精神保健福祉協議会 代表 宮崎県精神科医会 会長
理 事	植 松 昌 俊	西臼杵地域精神保健福祉協議会 代表
理 事	石 田 康	宮崎大学医学部精神医学講座 教授
理 事	福 岡 寛	宮崎県精神神経科診療所協会 理事
理 事	中 西 弘 士	宮崎県障害福祉課就労支援・精神保健対策室長
理 事	立 本 久 子	宮崎県精神福祉連合会 会長
理 事	米 崎 邦 雄	宮崎県断酒友の会 理事長
理 事	矢 野 光 孝	宮崎県障害者社会参加推進協議会 会長
監 事	藤 崎 淳 一 郎	宮崎県保健所長会 会長
監 事	高 橋 弘	宮崎県社会福祉協議会 副会長

● 役員数：理事 18 名（会長 1 名、副会長 1 名、常務理事 1 名を含む）、監事 2 名

● 役員任期：平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

宮崎県精神保健福祉連絡協議会 会員名簿

正会員

平成23年8月現在

組織・団体名	郵便番号	所在地住所	電話番号	FAX番号	ホームページ
宮崎地域精神保健福祉協議会	880-0032	宮崎市霧島1-1-2 中央保健所内	0985-28-2111	0985-23-9613	
日南串間地域精神保健福祉協議会	889-2536	日南市吾田西1-5-10 日南保健所内	0987-23-3141	0987-23-3014	
都城北諸地域精神保健福祉協議会	885-0012	都城市上川東3-14-3 都城保健所内	0986-23-4504	0986-23-0551	
西諸地域精神保健福祉協議会	886-0003	小林市堤3020-13 小林保健所内	0984-23-3118	0984-23-3119	
西都児湯地域精神保健福祉協議会	884-0004	児湯郡高鍋町大字蚊口浦5120-1 高鍋保健所内	0983-22-1330	0983-23-5139	
日向入郷地域精神保健福祉協議会	883-0041	日向市北町2-16 日向保健所内	0982-52-5101	0982-52-5104	
延岡地域精神保健福祉協議会	882-0803	延岡市大貫町1-2840 延岡保健所内	0982-33-5373	0982-33-5375	
西臼杵地域精神保健福祉協議会	882-1101	西臼杵郡高千穂町大字三田井1086-1 高千穂保健所内	0982-72-2168	0982-72-4786	
社団法人 宮崎県精神科病院協会	880-0013	宮崎市松橋1-1-32 コーポはまゆう7F	0985-60-2671	0985-60-2672	
社団法人 宮崎県精神科診療所協会	880-0879	宮崎市宮崎駅東1-6-7 あいくりニック内	0985-25-0085	0985-25-5882	
宮崎大学医学部精神医学教室	889-1692	宮崎市清武町大字木原5200	0985-85-2969	0985-85-5475	http://www.med.miyazaki-u.ac.jp
社会福祉法人 宮崎県社会福祉協議会	880-8515	宮崎市原町2-22 県福祉総合センター内	0985-22-3145	0985-27-9003	http://www.mkensha.or.jp
宮崎県精神科医会	889-0511	延岡市松原町4-8850 吉田病院内	0982-37-0126	0982-37-0233	
特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会	880-0014	宮崎市鶴島2丁目9-6 NPOハウス201号	0985-71-4366	0985-71-4366	http://www5.ocn.ne.jp/~mkaren
社団法人 宮崎県断酒友の会	880-0913	宮崎市恒久6丁目9-11	0985-53-6030	0985-53-6030	
宮崎県障害者社会参加推進協議会	880-8515	宮崎市原町2-22 県福祉総合センター内	0985-26-2950	0985-26-2950	
宮崎県保健所長会	882-0803	延岡市大貫町1-2840 延岡保健所内	0982-33-5373	0982-33-5375	
宮崎県障害福祉課就労支援・精神保健対策室	880-8501	宮崎市橋通東2-10-1	0985-32-4471	0985-26-7340	http://www.pref.miyazaki.lg.jp
宮崎県精神保健福祉センター	880-0032	宮崎市霧島1-1-2	0985-27-5663	0985-27-5276	http://www.pref.miyazaki.lg.jp
宮崎大学名誉教授	889-1911	北諸県郡三股町大字長田1270 老年期精神疾患センター内	0986-52-5800	0986-52-5573	

賛助会員

病院・診療所名	郵便番号	所在地住所	電話番号	FAX番号	ホームページ
宮崎大学医学部附属病院精神科	889-1692	宮崎市清武町大字木原5200	0985-85-9142	-	http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/hospital
医療法人清芳会 井上病院	880-0123	宮崎市大字芳士80	0985-39-5396	0985-39-2410	http://www.inoue-hp.net
医療法人同心会 古賀総合病院	880-0041	宮崎市池内町数太木1749-1	0985-39-8966	0985-39-0634	http://www.kgh.or.jp
医療法人真愛会 高宮病院	880-0841	宮崎市吉村町大町甲1931	0985-24-5678	0985-22-1571	http://www.takamiya.or.jp

財団法人弘潤会	野崎病院	880-0916	宮崎市大字恒久5567	0985-51-3111	0985-51-3114	http://www.koujunkai.jp
医療法人慈光会	宮崎若久病院	880-0945	宮崎市福島町寺山3147	0985-51-1548	0985-52-7394	http://www.miyazaki-wakahisa.com/
医療法人如月会	若草病院	880-0804	宮崎市宮田町7-37	0985-28-2801	0985-20-0819	http://www.miyazaki-wakakusa.or.jp
社団法人八日会	大悟病院	889-1911	北諸県郡三股町大字長田1270	0986-52-5800	0986-52-5573	http://www.fujimoto.or.jp
医療法人恵心会	永田病院	885-0084	都城市五十町5173	0986-23-2863	0986-23-2238	
社団法人八日会	藤元病院	885-0055	都城市早鈴町17-4	0986-25-1315	0986-25-2473	http://www.fujimoto.or.jp
医療法人一誠会	都城新生病院	885-0093	都城市志比田町3782	0986-22-0280	0986-25-1958	http://www.shinsei-hp.jp
医療法人陸誠会	延岡保養園	882-0863	延岡市緑ヶ丘5-14-30	0982-33-6396	0982-35-3370	http://www.ryuseikai.com
医療法人建悠会	吉田病院	889-0511	延岡市松原町4-8850	0982-37-0126	0982-37-0233	http://www.yoshida-hp.com
医療法人同仁会	谷口病院	887-0034	日南市大字風田 3861	0987-23-1331	0987-23-7739	http://www.taniguchi-hospital.jp
医療法人浩然会	内村病院	886-0002	小海市水流迫 852-1	0984-23-2575	0984-22-6442	
医療法人信和会	小林保養院	886-0003	小海市堤 2939	0984-22-2836	0984-22-5341	
医療法人和敬会	国見ヶ丘病院	882-1102	西臼杵郡高千穂町大字押方 1130	0982-72-3151	0982-72-3153	http://www.kunimigaoka.or.jp
医療法人十善会	県南病院	888-0001	串間市大字西方 3728	0987-72-0224	0987-72-5967	http://www.kennan-hospital.or.jp
医療法人向洋会	協和病院	883-0021	日向市大字財光寺 1194-3	0982-54-2806	0982-54-3319	
医療法人望洋会	鯨島病院	883-0033	日向市大字塩見 14168	0982-54-6801	0982-53-7313	http://www.sameshima-hp.jp
医療法人社団慶城会	瀧井病院	883-0033	日向市大字塩見 11652	0982-52-2409	0982-52-2403	
医療法人浩洋会	田中病院	889-0623	東臼杵郡門川町宮ヶ原 4-80	0982-63-2211	0982-63-2211	http://www.h7.dion.ne.jp/~tanaka_h
医療法人恵喜会	西都病院	881-0023	西都市大字調殿 1010	0983-43-0143	0983-43-3625	http://saito-hospital.jp
医療法人りっか会	ピア・メンタルささき病院	880-0211	宮崎市佐土原町下田島 21230	0985-73-1811	0985-72-0640	http://www.peer-ricca.jp
医療法人あいクリニック		880-0879	宮崎市宮崎駅東 1-6-7	0985-25-0085	0985-25-5882	
医療法人社団静心会	近間クリニック	880-0031	宮崎市船塚 1-2	0985-24-6662	0985-24-7008	
福永内科神経科医院		889-1607	宮崎市清武町大字加納 1-29-2	0985-85-6006	0985-85-6006	
早稲田内科神経科医院		880-0933	宮崎市大坪町西六月 2197-1	0985-53-3030	0985-54-5151	
野田クリニック		882-0052	延岡市萩町 52	0982-35-7789	0982-34-0085	
こころメンタルクリニック		880-0905	宮崎市中村西 3-2-33	0985-55-1777	0985-55-1789	http://www.miyazaki-catv.ne.jp/~kogomentalclinic/
北野メンタルクリニック		880-0844	宮崎市柳丸町 153-1	0985-22-7588	0985-22-7587	
向陽の里診療所		880-1101	東諸県郡国富町大字本庄 1407	0985-75-7752	0985-75-2979	
医療法人ハートピア細見クリニック		880-0001	宮崎市橋通西 1-5-3	0985-35-1100	0985-38-1711	http://www9.ocn.ne.jp/~hosomicl/index.htm
サザンクリニック		880-0912	宮崎市大字赤江 830-1	0985-50-5771	0985-50-5663	
みずのメンタルクリニック		883-0041	日向市北町 1-2	0982-50-0855	0982-50-0855	
中村クリニック		880-0806	宮崎市広島 1 丁目 17 - 21 ポレスターアーバンシティ広島 1F	0985-32-7830	0985-32-7831	http://www.nakamura-cl.com/

裏表紙説明

渡邊康造（47歳、宮崎市在住）
元デイケア参加者

精神保健福祉みやざき（第51号）

平成23年11月発行

編集発行 **宮崎県精神保健福祉連絡協議会**

〒880-0032 宮崎市霧島1-1-2

TEL 0985-27-5663

FAX 0985-27-5276

印刷製本 有限会社 宮崎新生社印刷

〒880-0124 宮崎市新名爪中牟田766

TEL 0985-39-6148

編集委員会 委員名簿

中央保健所健康づくり課	主任技師	田村ひろみ
日南保健所健康づくり課	主任保健師	井手香
都城保健所健康づくり課	技師	高野吉輝
小林保健所健康づくり課	主任保健師	益留真由美
高鍋保健所健康づくり課	主任保健師	高藤ユキ
日向保健所健康づくり課	技師	岩切裕美
延岡保健所健康づくり課	技師	丹波京子
高千穂保健所健康づくり課	技師	宮田志保
精神保健福祉センター	副所長	鎌田晶博
	主幹兼主任	本崎栄治
	主査	西山佳恵

精神保健福祉

ふたがき



宮崎県精神保健福祉連絡協議会

この広報誌は赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。
再生紙を使用しています